

ごしき

No.510
2006



まちの人口・世帯数（平成18年1月1日現在）

■世帯数 3,825世帯(+6) ■人口 11,484人(+6) ■男 5,524人(+3) ■女 5,960人(+3)

CONTENTS(目次)

	ページ
新年のあいさつ	2～3
議会だより	4～9
50年のあゆみ	10～19
みなさんからメッセージ	20～21
新市の行政組織	22～23
合併したらどうなるの？	24～26
合併に伴う手続き	27～29
消防出初め式	30
我がまちのおまわりさん	31
ごしきNOW	32～33
情報ひろば	34～35
えるるガイド	36
公園通信	37
スポーツNOW	38

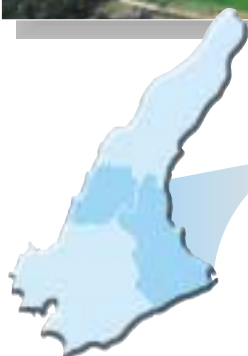


ともに歩んだ五十年
 ありがとう五色町
 そして今
 新たな歴史が始まります

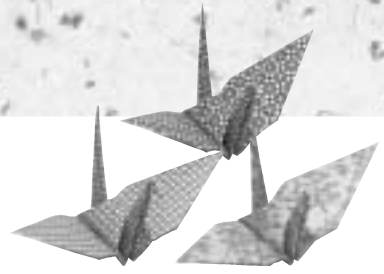
新市誕生までカウントダウン
 あと26日...

【役場代表アドレス】
webmaster@www.town.goshiki.hyogo.jp

■平成18年1月15日発行
 ■編集・発行／五色町役場 企画情報課
 〒656-1395
 兵庫県津名郡五色町都志203番地
 TEL.0799-33-0160 FAX.0799-33-0222
 ■五色町HP
<http://www.town.goshiki.hyogo.jp/>



あいさつ



五色町の誇りを新市に

五色町長 山口 一紀



新年明けまして、おめでとうございます。皆様お揃いで輝かしい新春を迎えられましたこと謹んで、お慶び申し上げます。

昨年5月、波乱と激動の中で最後の五色町政を担当以来、多くの町民の皆様方のお力添えを得まして町行政の総仕上げと、合併調整に全身全霊を傾注し、全力疾走で駆け抜けた数ヶ月でありましたが、ようやくゴールが見えてまいりました。

災害復旧工事発注完了

過ぐる一年は、一昨年の23号台風による未曾有の災害復旧に明け暮れた年であり、道路・河川の公共土木災害や農地等災害を合わせると1,530件、総額40億2,600万円の復旧額に達し、緊急を要する箇所から、早期復旧に全庁体制で取り組み、12月末までに建設業者への発注をすべて完了し、全体工事の進捗率が45%に達しました。

町の総仕上げに全力

私の在任期間は誠に短期間でありましたが、合併までに目途をつけるべきと、各方面から要望の寄せられていま

した事業の総括を致します。

念願でありました福祉施設入所希望待機者を解消する為特別養護老人ホームサルビアホール20床増設工事と旧五色診療所の宿泊型ケア施設としての改修工事も近く完成致します。

県道整備7路線の改良補修を始め、町道11路線の改良工事、町道舗装工事、都志地区密集住宅市街地整備、6地区のほ場整備、農道整備、小中学校の補修・改修、高田屋公園のログハウス、アスパ五色のパークゴルフ場建設等々の公共施設整備も急ピッチで施工を進めています。

更に、一昨年の災害を教訓に日頃の防災、減災への対策として県営ため池事業4ヶ所の調査測量設計、鮎原神周辺の排水対策として長年の懸案であった都志川釜淵周辺の河床断面掘削工事、高潮対策としての都志大浜住吉川の水門設置も17年度事業で着手致します。

国立公園五色浜の浸食越波対策として、潜水護岸設置と養浜工事を年次計画で着工にこぎつけることが出来、合併までに必ずと願っていた工事は、県当局への要請が実り概ね目途がついてまいりました。

又昨年は、五色町の閉幕を飾る年として数々の記念イベントを開催し、3月末の全国菜の花サミットを皮切りに、恒例の高田屋祭り、のじぎく兵庫国体リハーサル大会、第3回北方領土歴史

サミットを盛況裡に催し、その心意気を全国に発信することが出来ました。

注目浴びた定住少子化対策

新年の明るい話題と致しましては、我が五色町が出生率の上昇している全国的にも少ない町として注目を集めており、このところマスコミ取材や各県議会、市町村等の行政視察が相次いでいます。これは、日本が人口減少社会に突入する中で、当町が子育ての環境整備など、これまでの地道な積み重ねが攻を奏した結果であります。

町内で最も老朽していた鳥飼保育園については、改築要望が昨年7月に寄せられ次第、国・県の財源を早速確保し、臨時町議会を連続召集して、急遽着工にこぎつけました。

また、子育てセンターや各地区の学童保育「かざぐるま」等の関係スタッフによるきめ細やかな少子化対策が実り、全国平均で女性の生涯出生数が1.29人であるのに対し、五色町では10年前に1.72人であったが、1.82人と上昇し、大変評価されています。この結果は、過般の国勢調査でも明らかとなり、淡路島の総人口が7,728人減少し151,383人となる中で五色町だけが11,100とわずか10人だけですが、人口増となっている唯一の町となりました。

当町のように決して恵まれない条件でも、地域住民と一体となって「為せば成る」の先導的事例です。

バス路線存続に国県費導入

淡路交通バス路線についても昨年10

月から五色町単独で赤字補填する覚悟で存続をしながら、国県への助成措置を要請しておりましたが先般の知事裁定で国県折半の赤字補填が決定し、通学生やお年寄りの方々安心して頂けるものと存じます。

50年の歩みと輝く成果

顧みますれば、昭和31年9月30日、旧5ヶ町村が合併して五色町が発足。幾多の風雪を乗り越えて、「健康・福祉・環境の町」を標榜し、定住交流施策による過疎脱却を果たし、全国的にも名を馳せた輝かしい五色町の今日が築かれました。

これ偏に、先達の方々の英知と1万1千町民の総力の賜物であり、当町の道路整備率、圃場整備率、下水処理率、教育文化体育施設、情報、公園、健康福祉施設、集会所、消防施設、町営住宅等のいずれの公共施設整備率においても、又町財政の基金保有額、処分可能な町有地保有面積、交付税算入起債残高においても島内トップランクに位置し、兵庫県下でも誇り得る成果を収めています。

閉幕に当り、50年の歴史を刻んだ五色町に「ありがとう」、「ふるさと五色よ、永遠なれ」との万感の思いを込めて心からの賛歌と感謝の誠を捧げます。

地域特性つなぐ新市を

いよいよ来たる2月11日には、新生「洲本市」が発足致します。お互いの生まれや育ち、文化の違いを認め合い、両地域の長所や優れた点を学び取り、個性豊かな地域特性を大いに生かし、

2006年 新年の

淡路島の中央に輝く新市の建設を願っています。

住民自治を推進する為、企画管理部門は洲本庁舎へ移りますが、住民生活に直結する業務は、概ね五色庁舎で処理できるよう3部9課の組織体制で職員数は現行の7割程度を配置し、一定の予算の執行権を有した現地解決型シ

ステムを確保致します。

五色町が誇る対策や国民健康税、各種事業の助成、各種団体補助金等の住民生活に影響の大きいものについては、ソフトウェアを構築するよう配慮し、一体化するものとはメリハリをつけてまいります。

更に、農漁業の振興等元気の出る地

場産業の活性化策は引き続き力を注ぐ必要がありますし、定住対策や少子化対策、子育て環境の充実、今や国

地方が一体となって、取り組まねばならない重要課題であり、新市の主要施策に位置づけていただけるものと期待しています。

全ての新市民が新市への誇りと限り

和と誇りで新市づくりを

五色町議会議長 坂東 孝志



新年明けまして、おめでとうございます。

町民の皆様方には、希望に満ちた平成18年の新春をご家族お揃いで、ご健勝にてお迎えのことと心からお慶び申し上げます。本年が、皆様方にとりまして素晴らしい一年でありますようご祈念してやみません。

平素は、私も五色町議会に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。

振り返ってみますと、昨年は五色町にとりまして、進むべき道を決める重要な年であり、激動の一年であったとの感を持っております。

3月には町民の皆様には大変ご心痛を煩わせましたが、長年の懸案であり

ました合併問題におきまして、紆余曲折を経て、財政基盤を安定させて地方

分権への大きな流れに対応するため、洲本市との合併を選択、決定いたしました。その経過を受けて山口新町長が誕生し、五色町の集大成に向けた課題や事業に積極的に取り組む、並行して、洲本市と新市発足までに決定すべき事務事業の調整に執行部挙げて精力的に交渉してきています。その中で議会からも一貫して要望してきたことは、合併が与えます町民皆様方へのマイナス面の影響や不安の解消、緩和であり、そのため、合併後、五色庁舎が持つ現地解決型の機能が有効かつ適切に発揮され、行政サービスが維持されるものと期待しております。

合併問題と並んで緊急の課題でありました、記録的な被害をみた、一昨年の台風による災害復旧につきましても、執行部の迅速、果敢な対応により農地・農業用施設災害、町道・町河川災害と

も、年末までに全て工事発注され、復旧事業が順調に進捗してきています。まだ完了していない工事につきましても、計画どおりの期間内に終わり、早期の完全復旧がなされるものと確信する次第であります。

さて、来る2月11日には、いよいよ洲本市との合併となります。50年の歴史を刻み、全国的に評価されます町づくりに、懸命に取り組んできました五色町の閉町ということには、町民誰しも一抹の寂しさは禁じえないところでありましょう。万感胸に迫るものがございますが、この歴史的な大事業である新市の誕生を夢と希望を持って迎えたいと思います。これからの時代は、今までの市町の延長線上に新しい市があるのではなく、住民と行政が一体となって合併によるスケールメリットを十分に活かした新市の発展に取り組むことが重要であり、そのためにも、あらゆる住民がこれまでの垣根を越えて、新市民として両地域の融合に向けて意識改革をすべきであると思います。同時に、五色町が長年築いてまいりました、保健・医療・福祉施策や定住、子育て支援対策など全国にも誇れる財産

が、新しい市においても誇りうるものとなるよう、しっかりと引き継いでいく必要があると考えます。

2月10日の閉町とともに、五色町議会も幕を閉じることになります。私も五色町議会は昭和31年11月以来、町の発展と住民福祉の向上を願い、夢と情熱を持って、幾多の苦難を克服して、時代の変化に対応しながら新たな町づくりに挑戦してまいりました。ここに、これまでふるさと五色の発展に尽くされました諸先輩の努力、功績に対しまして、改めて心より賛辞を贈るものであります。

これまで議会を見守り、ご指導いただきました全ての町民の皆様に対しまして、心より感謝申し上げますとともに、皆様方のご健勝、ご多幸、そして愛するふるさと五色の限らない発展をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつと致します。



議会だより

最終号

「議会だより」は年4回(毎定例会後)の予定で議会運営委員会が、町広報紙を通じて議会の動きを直接みなさんにお知らせしてきましたが、合併により今回が最終号となりました。長年のご愛読ありがとうございました。

第326回 定例会

(会期:平成17年12月14日
~12月20日)

五色町議会最後の定例会となった12月定例会は、12月14日に開会し、教育委員会委員等の人事案件、工事請負変更契約の締結、土地の処分、取得、指定管理者の指定、平成17年度補正予算など32議案と、議員発議による政治倫理に関する決議が提案され、いずれも同意・認定・可決されました。

審議された議案

- ▼議案第87号
五色町教育委員会委員の任命同意について＝同意
- ▼議案第88号
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて＝適任
- ▼議案第89号
特別養護老人ホーム五色・サルビアホール改修工事請負契約の変更契約の締結について＝原案可決
- ▼議案第90号
高田屋公園ログハウス建設工事請負契約の変更契約の締結について＝原案可決
- ▼議案第91号～93号
兵庫県市町交通災害共済組合・兵庫県市町村職員退職手当組合・兵庫県町議会議員公務災害補償組合を組織する地方公共団体の数の増減及び規約の変更に
て＝原案可決
- ▼議案第94号～96号
洲本市・南あわじ市小中学校組合・衛生事務組合・山林事務組合への洲本市の加入について＝原案可決
- ▼議案第97号～99号
淡路広域行政事務組合・淡路広域水道企業団・淡路広域消防事務組合を組織する地方公共団体の数の増減及び規約の変更に
て＝原案可決
- ▼議案第100号
津名郡広域事務組合規約の変更について＝原案可決
- ▼議案第101号
五色町情報センター施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について＝原案可決
- ▼議案第102号
五色町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について＝原案可決
- ▼議案第103号～104号
淡路公平委員会・淡路教育事務協議会からの脱退について＝原案可決
- ▼議案第105号
土地の処分について＝原案可決
- ▼議案第106号
土地の取得について＝原案可決
- ▼議案第107号
五色町県民健康村健康道場の指定管理者の指定について＝原案可決
- ▼議案第108号
高田屋嘉兵衛公園の指定管理者の指定について＝原案可決
- ▼議案第109号～110号
町道路線の認定・変更について＝原案可決
- ▼議案第111号
平成17年度五色町一般会計補正予算(第6号)＝原案可決
- ▼議案第112号
平成17年度五色町国民健康保険結原診療所特別会計補正予算(第2号)＝原案可決
- ▼議案第113号
平成17年度五色町老人保健特別会計補正予算(第2号)＝原案可決
- ▼議案第114号
平成17年度五色町特別養護老人ホーム特別会計補正予算(第1号)＝原案可決
- ▼議案第115号
平成17年度五色町県民健康村健康道場特別会計補正予算(第1号)＝原案可決
- ▼議案第116号
平成17年度五色町介護保険特別会計補正予算(第2号)＝原案可決
- ▼議案第117号
平成17年度五色町土地取得造成特別会計補正予算(第2号)＝原案可決
- ▼議案第118号
平成17年度五色町水道事業会計補正予算(第2号)＝原案可決
- ▼発議第3号
新市における議員の政治倫理に関する決議について＝原案可決



一般質問

第326回定例会における一般質問は、7議員からなされました。概要は次のとおりです。



▲土井議員

新市におけるインターチェンジの新設について

土井議員 鳴門、明石両大橋により淡路島の交通が海から陸に切り替わり、新市の産業や観光の振興には高速道路との関わりが重要になり、新市が淡路島の中心として輝き、元気になるにはインターとのアクセス道路の整備も必要と考える。

町の地域ビジョンには、住民の利便性の向上、企業立地促進のため、中川原市原にインターチェンジの新設とアクセス道路の改良が謳われている。県道洲本五色線と立体交差をしている中川原地区は洲本、五色両地域の間際に当たり、インターチェンジを新設することは、新市のシンボルとして、また将来、新市の副都心として発展する可能性を秘めている。この構想実現に向けた考えを聞きたい。

山口町長 中川原インターは町の地域ビジョンに位置付け、新市建設計画に織り込む検討もされたが、最終的には市町で対応できる事業でないため、具体計画に至らなかった。

しかし、今年10月には公団が民営化され、ETC専用の路側帯から進入するスマートインター構想が試行的な検討段階に入っていると聞く。新たなインター設置には、地方出資金や公的資金が不可欠であり、可能であるならば、県道洲本五色線の合併支援道路に組み込み、関連事業として関係方面に要請していくのも一つの方策と考える。いずれにしても、この構想は本腰を入れ、新市ビジョンの中核に位置付け、相当なインパクトを持つて粘り強く取り組む必要があると思う。



▲山崎議員

1、入札執行

山崎議員 入札執行者が入札参加者(業者)側に立って入札に参加することは、特に軽率である。執行をする者と入札に参加する者との間には、当たり前のことである

が、越えることのできぬ高い垣がある。「くじ」を作った者は、くじをひいてはならない。

もう1点は、同額者からの落札者の決定を「時間を経て」執行したことである。法令は、適正な執行のために、「二以上あるときは、直ちに」と規定している。「直ちに」とは、速やかに、でも、遅滞なく、でもない。「すぐ」という意味である。従って、業者の拒否は想定していても、欠席は、この条文は想定していない。

以上2点からして、この入札結果には、疑義あるものと考えられる。多くの工事とか、早期完成のためとかは、法令に反することの理由にはならない。

以上、入札執行と入札管理について、この責務を問う。

山口町長 今回の入札業務については、町民の皆さんに心配をおかけし、申し訳なく思っている。ただし、台風23号の復旧事業は、町内業者の通常の消化能力の10倍を超える施工量であり、一時に数件の入札を迅速にこなす必要があるが、受注バランスから進入道路のないような悪条件の現場は敬遠される懸念があったことも理解いただきたい。

高田総務課長 新聞等で報道されたことについては、大変な迷惑をおかけした。災害復旧を早期に進めたい、農家の安全・安心のため取った手法の中で、一部に問題があり、お詫び申し上げます。

2、合併

(1) 新市名及び新市章

山崎議員 「洲本」と「現洲本市章」は、既に決定済みである。私は、このような旧洲本の名称と市章の踏襲には違和感を持っている。

町長としての、この決定に至る対処と現在の考えを聞く。

山口町長 新市名と市章を譲ったことは、まさに苦渋の決断であったと振り返る。市名については、一旦公募し正式決定したものを白紙にして、五色側のみに住居表示変更など、大変な経費と痛みを伴うため、新市の発足に当たっては、この重い決断を真摯に受け止めていただき、大きな心を期待したい。市章については市名ほどの影響はなく、合併事務調整の中で地域教育課を五色庁舎に設置するなど、現地解決型の機能を充実させることに比重を置いた結果と理解いただきたい。

(2) 合併のメリット

山崎議員 新市のビジョン・姿、情報発信も少ないと考えるので、この肝心のところを問う。

山口町長 メリットは、先山山系を越える二つの幹線県道を合併支援道路として、早期に整備されることである。

しかし、大切なことはメリットに、あるいはデメリットにするのも、自らが気概を持ってタイムリー

に努力するかということにかかっている。合併支援道路についても地元の協力が体制がないと、予算が他の自治体へ流れることもあり、受身の姿勢ではメリットは期待できない。

(3) 健康福祉のこれから

山崎議員 水準の維持、発展は見込めるのか。

森屋健康福祉課長 本町の保健医療福祉の特徴は、健康福祉センターや国保診療所などの整備、充実強化により、住民の健康に、生涯行政が関わる施策を進めてきたことである。

健康な生活を送りたいという願いは、全ての住民に共通するものであり、これまでの施策を検証するよい機会と捉えて、新市民にもアピールすれば支持が得られるものと確信している。

(4) 人件費、人件費比率

山崎議員 合併の長所の一つは人件費の削減である。(個々の給与を言っているのではない)

見通しを聞く。

高田総務課長 合併と同時に三役をはじめとした特別職の減少、旧の洲本市で15名の退職予定者がありこれを補充しないことにより、初年度で3億円程度の効果が考えられる。

(5) 五色庁舎(職員と権限等)

山崎議員 文化、産業、生活周辺

等々を背景とする地域を理解し、精通している職員を登用することが、合併後数年を経ればともかく、当初は五色庁舎で標榜する「現地解決・現地即応」には必要と考える。同時に、これに権限が付随する必要がある。

合併の幹事会なり、組織部会で、これらの事務調整が進んでいるはずであり、詳細を聞く。

上井助役 五色庁舎には、健康福祉部、地域生活部、地域産業部の3部と地域教育課が設置され、それぞれの事務処理を完結させ、現行のサービスを堅持させていく適正な人事配置を考えている。

重要なポストには、地域の事情に詳しい職員を配置すべく、現在、人事の確保に全力を挙げて調整を図っている。

(6)行政財産・基金等

山崎議員 両市町が合併に際し、持寄るそれぞれの価・量を具体的に聞く。

高田総務課長 16年度末において洲本市では土地363万平方メートル、建物14万7千平方メートル、五色町では土地96万平方メートル、建物11万2千平方メートルあり、基金として現計予算ベースで、洲本市は10億14百万円、五色町は29億94百万円有している。負の財産の借入金金は、洲本市が47.5億93百万円、五色町は21.8億5千万円を抱えている。



▲地附議員

町の過去の施策と 新市への展望

地附議員 町の過去の施策を振り返り、地域特性として新市に引き継ぐことが重要である。

健康福祉については、多くの町民が守っていきたく願っているが、新市で十分理解されず、携わる臨時職員が削減されサービスが低下することが懸念される。

宅地開発、町営住宅の建設、企業誘致の定住対策を進め、人口の増加、出生率のアップに繋がったが、これらの施策や子育て支援策はどのように引き継がれるのか。

風力発電に代表されるように、環境対策を積極的に進めてきたが、新市における環境事業の取り組み、BDF精製プラントの活かし方の回答を求める。

山口町長 町の50年の歩みは、過疎地域のハングリー精神で地域振興に取り組んできたもので、インフラ整備や財政状況も島内のトップクラスであり、各市が大幅な人口減少を見せている中で人口増を果たしている。

町の地域特性や伝統文化を、自信を持って新市に継承できるように、基金も減らさず新市につなぎ、これを背景に職員が思う存分活躍できる体制をつくること、残された責務と考える。

森屋健康福祉課長 五色町は今まで培ってきたノウハウを持って、正規職員だけではなく臨時、パート職員も頑張ってきた結果である。サービスのほとんどは特別会計を組み収支を明らかにしてきたが、今後はこれが大きな課題になると思う。

赤松地域開発課長 全国的に注目される定住施策の中で、土地取得造成特別会計が大きな役割を果たしてきたと思うので、特別会計や財政調整基金、蓄積してきた町有地を一体として、よりよい形で新市へつなげることが大事である。

長期的な展望とともにタイムリーな定住施策を進めていく必要があると考える。

清水住民課長 保育料については、月額で最高2万円の開きがある階層もあった中で、調整の結果、最高でも1割程度、全体で3%の値上げとなったが、これまでの支援策を継承するほか、延長保育の充実や一時保育の実施を進めていく。

児童保育や他の施策についても、きめ細やかな特色を維持していきたい。

川端生活環境課長 資源循環を目的とした「菜の花エコプロジェクト」の取り組みとともに、15年度

からBDFプラントを導入しているが、合併後も継続したく、18年度に県の助成による菜の花の収穫コンバイン等の導入を計画している。

ごみ収集においても、ゴミステーションの建設が18年度から洲本市でも計画され、これまでの五色町の施策が引き継がれることになる。

合併問題総括

地附議員 合併問題を総括している中で問題と感ずるのは、情報開示のことである。

三位一体の改革で交付税は減額の一途との説明があったが、12月補正予算では増額されている。これは合併が決定をみたことによるものなのか。

住民説明会等では、財政力のある洲本市と合併しなければいけないという説明に終始したが、洲本市の財政状況は新聞報道のとおりである。出納閉鎖後に両市町が持ち寄る基金及び債務残高の公表を求めたい。

みやまホールでの保護者会主催の説明会への参加者から、「町職員の説明では、合併したら保育料は上がらないと聞いて署名したのに、騙されたのかな」と言われた。不信感を持たれているのは残念であり、当日出席していた職員の弁明を求める。

山口町長 他市町で先行して合併が進む中、五色町では小回りを利かせることが功を奏して、17年度

の特別交付税の増加を認めてもらっている。

三位一体の改革により国庫補助金が削減されてきており、交付税だけ見れば余り後退していないが、トータルで見ると、厳しい状況が刻々と迫ってきている。

高田総務課長 三位一体の改革に続く財政改革が、目前に迫っていると認識している。国は、交付税会計にも大きな赤字を抱えており、赤字を借り入れしないと、交付税会計だけで今よりも10〜20%減額になると思われる。五色町のような小さい町では、税源移譲による税収よりも交付税の方が大きく、交付税会計の減額の率より大きい。

3月に保育料の質問を受けた時、洲本市との差は2割程度であり、それ以上上がることはないと説明した。保育料が今後変わることがないとは説明していないので、理解いただきたい。



▲小坂議員

合併問題総括について

小坂議員 合併調整項目が合意された時点で、11月末頃にACTを

通じて経過説明されていないことは、住民に知らずことができないう大きな課題が残っているのか。

新市名が「洲本市」になったこと、市章も現在のものに決定したことは、五色側のみに負担や変更を強いるもので、今なお町民の間に不満、不信が渦巻いている。これにどう答えるか。

農業、水産振興事業の調整は新市発足後となっており、五色の特色が活かされるか、不透明である。その見直しはどうか。

健康福祉部門では五色が主導し、現行のサービスが続けられると思うが、見解はどうか。

保育料や教育関係についても、調整内容を通じて、どのように評価しているか。

山口町長 事務調整を終えて職員配置、新年度予算の大綱を決定して、説明する予定であったが、作業が遅れてきている。目下、現地解決型の五色庁舎の要である人事配置の決着に全力を尽くしている。現状の一般職員の7割を確保して一定の予算執行の決裁権を有し、住民直結の業務が完結できる仕組みが必要であり、人事が終わり次第、説明させていただきたいと考える。

十川教育長 人事が調整中であり、事務調整も細部の詰めが残っている中で、地域教育課が確保され、一応の成果を見た。合併後、教育委員は5人になるが、町長、助役の努力で五色から2人、洲本から

3人に決まったので報告する。

高田総務課長 住民の中に不満や不信があることは理解しているが、幹部職員が丸となって、こうした心配が杞憂に終わるために、今後も努力していく。

船越農林水産課長 土地改良事業の受益者負担割合については、継続地区は現行のまま引き継ぎ、新規地区は新市において決定される。農業関係の助成金等については、18年度は現行を継続し、それ以降に調整できるものから協議する。

合併後1年間は、現在の農業委員により委員会が構成されるが、その後委員会も五色からは現行の13名の公選の委員が確保される。**森屋健康福祉課長** 最大の問題であった国保税については、不均一課税が確認され、前年度の医療費を基に積算される。

しかし、国保税にしろ、介護保険料にしろ、それを抑えるため、保健事業や介護予防が大事であり、五色には、その人材が確保されており、合併後も力を注ぎ住民負担を下げるようにしたい。

清水住民課長 保育料については、現在は最高2万円の開きがある階層もあったが、調整により現行より下がる階層もあり、最高で1割程度の値上げで、平均3%の負担増をお願いすることになった。サービスの低下を起こすことなく、地域特性を活かした子育て支援を行っていききたい。

広域行政について

小坂議員 本年4月の所長の分署への配置換えにより、五色出張所は3人体制になっており、緊急時には3人で出勤している。本部等からの支援もあるようだが、今の体制で不安はないか。

警察署の再編により、津名西署が廃止され派出所になり、五色は洲本署管内になる。社会秩序や治安を守る上で、駐在所で事足りるのか。また、津名西署で対応していた諸手続きが全て洲本署になるのか。

川端生活環境課長 五色出張所は10名体制に減っており、救急出動の間は隣接の出張所等が応援体制を敷いている。しかし、住民の安全・安心のため、財政負担を伴うが、救急出動時でも出張所に職員が残る最低限の14名の職員配置を要望したい。

町内の4駐在所、4名の警官が治安の維持等に努めているが、防犯協会、交通安全協会等は継続して活動願うよう、合併協議を進めている。しかし、津名西署の廃止により西浦地域に警察署がなくなることに伴い、24時間駐在する派出所の整備等が課題と思う。

手続きの関係では、法改正により優良運転手であれば、免許証の更新は管轄以外でも可能となり、住民生活には大きな影響を及ぼさないと考える。

農業問題について

小坂議員 農水省の「経営所得安定対策等大綱」は、従来の全農家を対象とした価格政策を全廃し、07年度から品目横断的経営安定対策を打ち出しており、対象となるのは、都道府県では4割以上の認定農業者であり、淡路島ではないと思われ。また、品目横断的対策は畑作物が中心で、五色のような畜産や野菜づくりの農家は対象外となる。

この対策が、五色の農業にどのような影響を与えると考えるか。**船越農林水産課長** 品目横断的対策の具体の中身は、米、大豆、てんさい等を対象品目として、諸外国との生産条件格差は正のための対策等であり、五色や洲本の特産である玉葱や酪農、和牛等については政策の見直しの対象となっておらず、大きな影響はないものと考えている。

農業振興のため、特産品の振興に重点を置き、認定農業者の掘り起こしや再認定、集落を単位とした生産組織の育成が重要である。

市町合併の総括

(1) 現地解決型のための人員、権限について

斎藤議員 新市の機構、組織については確認合意されているが、永年培ってきた地域の良さや主要施策を堅持し、現地解決型の基本となる人員配置と執行権限は確保されたのか。また、市町の相互理解を図る上で、今後の課題として何が考えられるのか伺う。

高田総務課長 五色庁舎には当初は現在の7割の職員数を配置する考えで、総務、企画、議会等以外の、住民と直接関係のある分野を中心に確保したい。

執行権については、五色庁舎に助役を置くとしており、予算執行においても、五色に置かれる3つの部が洲本と同じ権限を持つことになる。予算要求は、健康福祉部以外は洲本庁舎になるが、五色庁舎との円滑な運営に心掛ける。

(2) 包括支援センター、健康21について

斎藤議員 本町では17年度から包括支援センターを設置し、要支援高齢者の抑制と予防対策の必要性を訴えてきた。その事業展開の中で、15年度に取りまとめた健康21の調査結果がどう活かされたのか。また、合併後のセンターではどう活かされるのか。センターの拠点、人員配置も聞きたい。

森屋健康福祉課長 地域包括支援

センターは、社会福祉士、保健師、主任ケアマネージャーで組織され、2万人規模に1カ所と、国から示されているが、五色庁舎に置くことで調整された。

健康五色21では高齢者において、活動的な人を増やす、無理のない運動習慣を持つ人を増やす、食事に問題のある人を減らすの3つのテーマを掲げており、これらはまさしく介護予防のメニューに入っている。

(3)事務調整等の経過説明について

齋藤議員 合併協定項目の調整は全て確認がなされ、町内会長には報告されたと聞くが、住民への周知を早期に行う必要があったのではないか。

合併前の課題として、路線バスの安定運行は行政の責務と思うが、9月以降の進捗を聞きたい。また、新市政運営のビジョン、意気込みを問う。

山口町長 合併の事務調整で住民の不安感を解消することに全力を注いだため、予定より職員の人事配置等が遅れている。対等合併が見える形で人事配置を決着させることが、現地解決型の機能を持つことに重大であり、それを説明会よりも優先すべきと考える。この問題が決着次第、合併調整の経過や総括を、ACITや諸会合等で報告したい。

淡路交通バスの問題については、

10月からは町が単独補填する覚悟で存続を続けているが、粘り強い交渉の結果、運行赤字の全額を国県折半で補填することが決定したので、安心していただきたい。

新市政の展望については、人員配置の調整が最後の正念場を迎えており、新市への参画の余裕は持ち合わせていない。

安全・安心のまちづくりは

齋藤議員 子供が被害者となる誘拐殺人事件が多発しているが、五色についてはどのような手法で、子供の安全の確保に取り組もうとしているのか。

十川教育長 町内では、10月までに不審者からの声かけ等の事件が6件あったが、その都度、保護者、学校、地域の方々、警察の敏速な対応により注意を呼びかけたり、パトロールを自主的に行っていただいている。

学校での防犯教室による児童への指導、110番の家の周知をしているほか、通学路安全マップを作成し、今後の安全対策を協議してもらいたいと思う。また、3学期の早々に全児童・生徒に防犯ブザーを、教室においては催涙スプレーを教師に渡したい。

地域の宝である子供を守るため、学校、家庭、地域、行政が役割分担を補完、連携することが大事である。



▲木元議員

災害対応

木元議員 都志川河口の水門設置と内水排除のポンプ設置の具体的な予定、防災公園としての住吉公園の整備はどうなっているのか。

都志川の1日も早い災害復旧を願うが、砂袋を積んだままの状態が続いている。今後の予定について聞きたい。

近い将来必ず起こると言われている南海沖地震に対する対策、洲本市との協議はどのようになっているのか。

山口町長 昨年の台風時の、住吉川からの逆流浸水箇所については、関係当局へ働きかけた結果、県管理港湾の海岸事業として、17年度に水門設置の調査、基礎工事の予算4千5百万円が計上された。上部工事、水門工事は18年度事業となるが、その完成に合わせて内水排除のポンプは、町の下水道工事を実施すべく、18年度に認可申請を行う。

居上建設課長 住吉公園の整備については、密集事業の中で来年1月の着工を考えている。

都志川の災害復旧に関しては、県は既に契約を終えており、河口沖でのりの養殖時期に入っているため、漁業組合と調整中であり、終わり次第、早期に取り組まれる。

川端生活環境課長 南海沖地震の確率は、30年以内に50%、50年以内に80%と言われており、1・5mの津波が87分後に西海岸に到達すると予想され、浸水想定区域や避難所を示したマップを全戸に配布する。

各地区の消防拠点施設へ土嚢等を配備しているほか、避難所に車イス、簡易ベッドを配布している。1月末までに、野外の緊急放送設備も8カ所増設する。

新市になってからは、防災計画を再度見直すことになる。

未収金徴収

木元議員 9月議会の一般質問に対して「時効期限が迫っている未収金については、法的措置で臨む」との答弁があった。議会も関連する2つの決議を可決した。主に固定資産税の延滞金と角川長池地区の負担金のことであるが、その後の取り組み状況等を問う。

今回、一般会計補正予算に顧問弁護士料200万円が提案されているが、これは前述の法的措置に關係するものか。

武田税務課長 9月議会で指摘の、時効の迫った延滞金の事案については、具体的なことは言えないが、法的な差し押さえ処分を行い、時

効中断の措置を講じた。

税務の業務を進める中で、納税者との間に税に対する認識のずれが生じ、滞納に繋がるケースが多く、専門家の判断を仰ぐ場合がある。こうした面で弁護士に依頼する費用を計上した。

船越農林水産課長 角川長池地区のほ場整備事業分担金の未収金に関して、9月議会終了後、代表者を訪問し、法的措置も含めた手続きを始める旨を伝え、10月上旬に催告書を発送した。

その後10月末等の2回の会合で換地事務や事業完了に向けての説明と、納付依頼を行い、11月22日に全員から入金いただいた。

介護保険

木元議員 6月の介護保険の改正の中で、要介護認定事務の見直しがされたようである。来年4月からは洲本市へ事務が移るが、見直しはどのような影響を及ぼすのか。

合併後、介護保険料は4,000円にもなるようなことを聞くが、どうなるのか。

地域再生計画の申請を行ったと聞くが、計画の概要、町民にとってのメリット等を聞きたい。

森屋健康福祉課長 全国的に要介護度1、2の高齢者が多くなっており、これを抑えることが見直しの大きな柱となった。要介護度1の方を予防給付費と介護給付費に分け、予防給付を受ける方の限度額が変わることになる。

18年度が介護保険計画の第3期の始まりになり、保険料は事務調整で当初に合わすことになっていく。保険料は給付費に比例して伸び、4,000円近くなると思われる。

国の補助金による施設はむやみに転用できないが、そのメニューが地域再生計画にあり、農水省の補助事業による健康村のトレーニングセンターを介護予防の拠点に再生する計画である。

合併

木元議員 合併後の組織に関して、町が取り組んできた定住対策を踏まえて少子対策部というものをつくるべきではなかったかと考える。それが新市の特徴にもなる。合併後、新たな組織づくりができるか聞きたい。

町が主張してきた、新市建設計画に入っている特例債事業、特にタラソはすり合わせの結果、担保されているかどうか。

合併を控えて閉町イベントは計画しているのか。具体的な内容はどうか。

町の大切な資料や重要書類の保管場所が高田屋荘になっているが、大幅な修繕が必要と思う。

合併後、ケーブルテレビはどうなるかと聞かれることがある。地上デジタル放送の開始に伴うテレビの買い換えを心配している人もいますので説明願う。

高田総務課長 合併協議では、今

現在をどうするかという検討がなされており、少子対策部の提案は新市に繋いでいって、新市で新しい市長が考える性質のものである。特例債事業については、法的には、新市の総合計画に位置付けていくことになろうかと思う。ただ、総合計画は新市建設計画を尊重することにになっており、その意味では担保されていると思われる。

倉内企画情報課長 町制施行50周年記念式典と合わせて閉町式を、来年1月21日に文化ホールで予定している。式では、各分野で功績のあった方々に感謝状を贈呈したい。

合併後、当分の間、情報センターは直営で運営され、自主放送番組は新市で統一して3つのチャンネルが採用される。

2011年7月から地上波デジタル放送が本格実施され、放送を見たい場合は、特別なコンバーターを設置する必要がある。デジタルへの切り替えの際には、テレビ受像器の買い換えも考慮されたい。

指定管理者

木元議員 2つの施設の指定を提案しているが、本来、施設の使用目標、記録等を情報公開して、機会均等、公平性を重視して公募するのが望ましいはずである。今回とともに公募をとらなかった。なぜ公募しなかったか聞きたい。

山口町長 健康道場と高田屋公園に関しては、既に委託してきた健康財団とふるさと振興公社に管理者の指定を提案している。これら2つの施設は、施設建設の段階から第3セクターへの委託を模索し、その受け皿として財団法人を設立してきた経緯がある。



▲笹田議員

人事について

笹田議員 新市の近々の課題に、職員数の適正化が挙げられる。現在のままの職員数で新市に移行すると、スリム化やコスト削減という合併の基本的命題を骨抜きにすることに。

新市の人事配置の中で、予算編成の権限がどの部署に集中されるのか。また、予算執行に当たってはどのポストが権限を握ることになるのか。命令系統も明確に示されているかも問う。

高田総務課長 人事配置については現在、鋭意調整中で、もう少し時間がかかる。

予算編成、予算執行については、斎藤議員に答えたとおりで、省略する。

土地処分について

笹田議員 9月議会での答弁が具体化され、土地の処分の議案が上程されており、売却先は大昭和精機株式会社である。大昭和精機は、町にとっての企業誘致第1号であり、会社が進出し町に根付かれて23年間、町勢発展にどのように寄与されたか伺いたい。

山口町長 小山田の企業団地内に第5工場を増設されるに伴い、周辺の土地を町が取得した上で譲渡する契約と、長年眠っていた中邑の造成地を処分することに決まった。

大昭和精機は、技術と経営ノウハウにより飛躍的に事業展開され、ツーリングの部門では日本のトップ企業に成長された。特に、小峰社長は結原の出身で愛郷心が強く、今回の土地の譲渡に結びついた。今後とも関連事業用地として有効適切に活用いただけるものと確信している。

農業対策について

笹田議員 農業を取り巻く諸情勢は厳しく、五色町も高齢化と兼業化が進み、農村の本来あるべき機能が低下し、崩壊へと至るのでは

ないかと、不安と危惧を抱いている。今後、都会からの定年退職者のUターンによる就農も考えられるが、農業振興についてどう取り組むのか。合併後、市独自の支援策も必要ではないかと考える。

船越農林水産課長 合併後、五色庁舎には現地解決型の地域産業部が置かれ、土地改良事業や農業分野の事務を担当する。

農業振興のため、地産地消の推進、認定農業者等の掘り起こし、集落による生産組織の形成などに取り組むとともに、昨年の台風災害を教訓に、ため池の整備を図ってきたい。

都志川河川工事について

笹田議員 結原小学校横の隧道、河上橋下流の井堰の撤去等についての、9月議会後の進捗状況と、抜本的な都志川河川整備計画について聞きたい。

山口町長 天神川下流の岩礁を撤去し、流れをスムーズにする工事については、地元熱意により下流の縄手田主の井堰撤去に快諾をいただいた。災害が繰り返されることのないよう、住民と一丸となって県当局に17年度中の工事着手を強く要請した結果、2千万円の予算を確保していただき、着工の運びとなった。

小学校南側の相原川隧道の根固め工事は既に発注しており、12月末を目途に施工できる。

みなさんに愛され支えられたまち

「広報ごしき」で振り返る

五色町半世紀のあゆみ

私たちのまちは、昭和31年9月30日、津名郡都志町、鮎原村、広石村、鳥飼村、三原郡塚村の5か町村が合併し五色町として誕生しました。

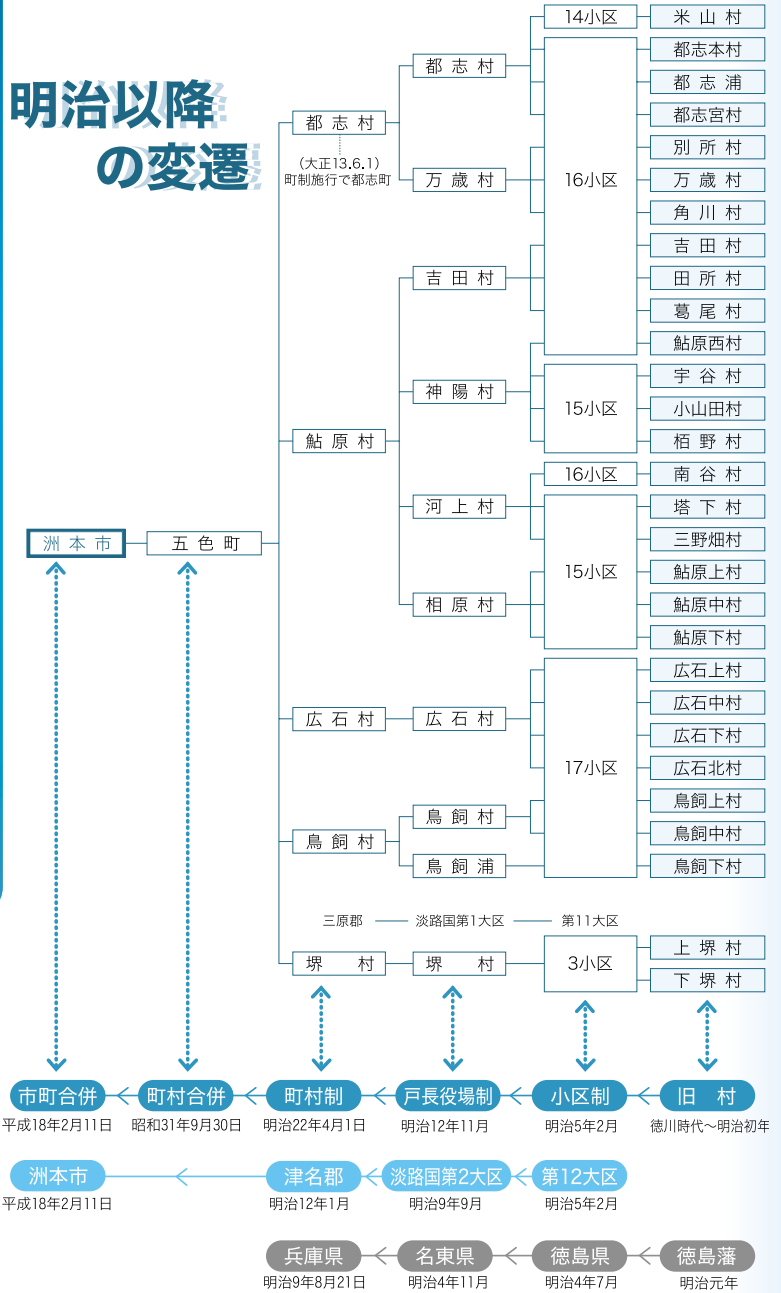
まちは変わりゆく社会情勢のなか、先人たちの叡智により豊かで誇りある歴史を著実に刻み発展を続け、合併から今年で50周年の節目を迎えます。そして、まもなく新生「洲本市」として新たなスタートを切ります。

「広報ごしき」は昭和33年5月に第1号が発行されて以来、まちの出来事や情報など町民と行政のパイプ役、そして、後世に歴史を伝えるための役割を担い、五色町とともに時を刻んできましたが、今回の510号が最終号となりました。新市への期待を寄せて、本町が歩んできた半世紀の歴史を振り返ります。



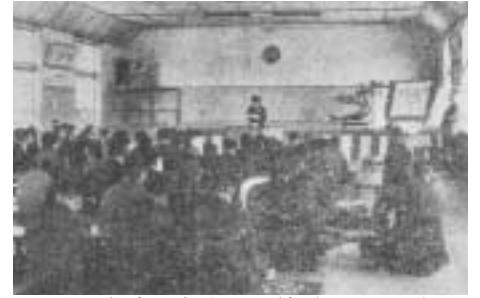
◀ 広報創刊号（S33.5.15発行）
当時は、「五色町広報」として発行。現在は「広報ごしき」となっている。

明治以降の変遷



- 昭和31・9 合併調印式(津名郡都志町、鮎原村、広石村、鳥飼村、三原郡塚村)
- 五色町発足(9月30日)
- 初代町長に中野久平氏当選
- 第1回町議会議員選挙
- 町消防団結団初出式
- 鮎原地区で集団赤痢発生
- 国民健康保険全町実施
- 鳥飼診療所焼失
- 町広報第1号発行
- 鮎原中学校プール完成
- 役場庁舎を鮎原より都志へ移転
- 鳥飼漁港工事着手
- 五色丘診療所完成
- リコール問題等で中野町長辞職
- 町長に中野久平氏当選
- 国民年金制度発足
- 第1回五色町社会福祉大会
- 伊勢湾台風襲来
- 母子健康センター完成
- 横尾トンネル開通
- 五色町商工会結成
- 都志中学校特別教室完成
- 第2室戸台風襲来
- 広石小学校改築工事完成
- 役場庁舎完成
- 鮎原産業センター完成
- 五色丘農業協同組合発足
- 鮎原診療所完成
- 町長に上田勇氏当選
- 都志小学校プール完成
- 鳥飼漁港第1防波堤完成
- 花立トンネル完成
- 町広域簡易水道着工
- 台風23号、24号被害

五色町50年のあゆみ



▲昭和35年成人式 堺公民館 (S 35.1.15)



▲横尾トンネル開通式 トンネル東入口 (S 35・9・13)



▲昭和36年消防団初出式 鳥飼小学校 (S 36.1)



▲第2室戸台風の襲来で海底に消えてゆく民家 五色浜 (S 36.9.16、午後2時30分)



▲7月定例議会のもよう (S 37.7.25)



◀台風の濁流による惨状 (S 40.9) <写真奥側=旧都志郵便局>



▶配水管工事着手 (S 40.4) <写真=角川地区内の県道>



◀都志小と志染小との交歓会 (S 42.7.22 ~23)



▲第11回五色町文化祭 鮎原公民館、小学校 (S 43.3.10)



▲昭和40年災害完成 <写真=広石川>



▲学校給食開始 (S 46.4)



▲第1回町長杯争奪柔道大会 (S 46.8.28)

昭和41・1 五色丘中学校屋内運動場完成

5 水道給水テスト開始

8 水道一部給水開始

11 都志万歳ごみ焼却炉完成

昭和42・3 広域簡易水道完成

3 児童館完成

4 老人憩の家「寿荘」完成

4 町長に上田勇氏当選

5 町振興計画審議会発足

昭和43・5 鳥飼駐在所新築移転

7 広石上水道浄水場完成

11 町交通災害共済制度開始

昭和44・4 共同肥育牛舎完成(三野畑地区)

4 五色町漁業協同組合発足

4 五色中学校開校(都志、鮎原、五色丘の各中学校統合)

7 五色中学校校舎建築着工

7 鳥飼保育園舎完成

11 高田屋嘉兵衛生誕200年記念式執行

12 高田屋嘉兵衛顕彰会発足

昭和45・2 都志駐在所新築移転

12 五色学園オープン

4 過疎地域の指定を受ける

7 町議会100回記念式開催

7 鳥飼舟だんじり、万歳つかいだんじり万博に出演

昭和46・1 鳥飼漁港2号防波堤完成

12 五色中学校校舎竣工

4 学校給食開始

4 町長に庄司勇氏当選

8 台風23号襲来

10 寝たきり老人医療費無料化開始

昭和47・1 児童手当制度スタート

2 老人憩の家「あいはら荘」完成

3 都志港西防波堤完成

4 鮎原保育園が町に移管



▲急ピッチで進む五色大橋の架設工事 (S47.3)

▶ 広報第117号 (S47・10・15発行)



▲皇太子ご夫妻が五色学園へ (S47.11.7)



▶ 鮎原有線テレビ (S48・3・1開局)
▲ 広報第120号 (S48・1・1発行)



▲ 第1回五色町民体育祭 (S48.10.10)



▲鳥飼小開校100年記念行事 (S48.12.6)



▲第1回五色町ロードレース大会 (S49.1.12)



▲都志川氾濫による被害 (都志大宮付近) (S49.7.7 台風8号)



▲都志八幡橋完成で三世代夫婦による渡り初め (S50.4.6)

昭和47

- 4 県営住宅都志テラス完成
- 4 五色中学校体育館完成
- 11 皇太子ご夫妻、五色学園をご視察
- 12 五色町体育協会結成

昭和48

- 2 都志・鮎原区域電話自動化
- 2 農業振興地域の指定を受ける
- 3 鮎原有線テレビ開局
- 3 県道都志バイパス開通
- 3 漁民住宅、教職員住宅完成
- 4 ふたば保育園、町立広石保育園として開園
- 4 鮎原保育園園舎完成
- 4 盲老人ホーム五色園完成
- 5 堺小学校特別校舎完成
- 5 ごみ焼却炉完成
- 6 秩父宮妃殿下ご来町
- 7 同和教育協議会結成
- 7 新五色浜海水浴場県民サンビーチ完成

昭和49

- 10 第1回五色町民体育祭開催
- 1 第1回五色町ロードレース大会
- 3 広石保育園園舎完成
- 3 広石浄水場完成
- 4 万歳保育園、都志保育園が町立都志保育園として開園
- 6 都志小学校校舎完成
- 7 高額医療費支給制度開始
- 7 台風8号による水害
- 9 国民年金スライド制実施
- 9 農災寄附金問題発生
- 10 広石・鳥飼・堺地域電話自動化
- 11 三野畑地区ほ場整備着工
- 3 都志保育園園舎完成
- 4 老人憩の家「広石荘」完成
- 4 町長に剛武夫氏当選
- 5 広域消防五色出張所完成
- 5 粗大ゴミ処理場完成(洲本市奥畑)

昭和50

- 3 老人憩の家「広石荘」完成
- 4 町長に剛武夫氏当選
- 4 広域消防五色出張所完成
- 5 粗大ゴミ処理場完成(洲本市奥畑)



▲広報第176号 (S 52.9.16発行)



▲広報第181号 (S 53.2.15発行)



▲淡路農業高等学校五色分校で最後の卒業式 (S 53.2.28)



▲鳥飼宮相撲10年振りに復活 (S 53.10.16)



▲3町合同(五色・一宮・北淡)はたちのつどい (S 54.1.15)



▲昭和54年台風16号被害(広石下札の辻付近)



▶町民センター駐車場に「健康の町」看板設置 (S 55)



▶広報第209号 (S 55.6.15発行)



▲第1回高田屋まつり (S 55.8.15)

昭和51 11 三島徳七博士死去(83歳)

昭和51 3 老人福祉センター「高田屋荘」完成

昭和51 4 高田屋嘉兵衛150年祭実施

昭和51 4 三島博士育英基金条例制定

昭和51 7 大鳴門橋着工

昭和51 9 町制20周年

昭和52 3 町民センター完成

昭和52 4 みたら保育園が町立堺保育園として開園

昭和52 7 鳥飼小学校プール完成

昭和52 11 鮎原下ほ場整備に着手

昭和53 1 堺保育園舎完成

昭和53 3 鮎原小学校体育館完成

昭和53 3 長池配水タンク完成

昭和53 7 五色中学校プール完成

昭和53 12 鮎原公民館完成

昭和54 2 広石小学校屋内運動場、特別教室完成

昭和54 4 町長に剛武夫氏当選

昭和54 6 剛町長死去

昭和54 6 堺小学校プール完成

昭和54 7 町長に斎藤貢氏当選

昭和54 9 台風16号襲来

昭和54 9 都志小学校屋内運動場、集会施設完成

昭和54 9 高田屋嘉兵衛記念館完成

昭和54 10 五色中学校夜間照明施設完成

昭和55 1 老人給食サービス開始

昭和55 3 健康の町宣言、町民健康の日を制定

昭和55 4 五色中学校柔剣道場完成

昭和55 4 鳥飼コミュニケーションセンター完成

昭和55 7 淡路生きがい創造センター完成

昭和55 7 広石小学校プール完成

昭和55 8 第1回高田屋まつり開催

昭和56 2 健康村建設に着手

昭和56 2 学校米飯給食開始

昭和56 3 鳥飼小学校校舎完成

昭和56 4 五色丘農協管内で新有線放送開設

昭和56 5 角川ふるさと会館完成



▲第3回元旦歩こう会（千光寺境内）（S56.1.1）



▲親子水泳教室（S56.8.3）



▲第1回健康まつり（S56.10.10）



▲車1台がやっと通れる県道（鮎原小山田）（S57当時）



▲工事中の健康村（S56.10）



▲広報第227号（S56.12.15発行）



▲大昭和精機淡路工場完成（S57.7）

昭和56

昭和57

昭和58

昭和59

昭和60

- 5 小山田配水池完成
- 6 入浴サービス事業スタート
- 8 第1回ナイター親子水泳教室開催
- 8 第1回ソフトボールナイターリーグ戦開催
- 10 第1回健康まつり開催
- 11 白巢城400年祭開催
- 12 鳥飼浜ふるさと会館完成
- 1 龍宝寺集会所オープン
- 2 鳥飼保育園舎完成
- 3 健康道場、保健センター、五色診療所オープン
- 3 堺小学校校舎、屋内運動場完成
- 5 鳥飼南ふるさと会館完成
- 7 町内初の企業誘致、大昭和精機(株)淡路工場操業開始
- 7 広石会館完成
- 3 上堺ふるさと会館完成
- 3 鮎原小学校新校舎完成
- 5 第2健康道場、研修会館オープン
- 7 町長に斎藤貢氏無投票再選
- 10 健康村運動広場、テニスコート完成
- 11 大規模肥育牛団地が都志空所地区に完成
- 1 町商工会館、青少年センター完成
- 2 鳥飼小学校屋内運動場完成
- 3 親と子のふれあい広場が健康村に完成
- 4 「瀬戸内少年野球団」映画ロケ実施
- 5 後継者対策推進委員会発足
- 7 町民会議結成
- 8 広石小学校校舎補修完成
- 12 鮎原小学校校舎増築完成
- 3 老人福祉センター「堺会館」オープン
- 5 健康村トレーニングセンター完成
- 5 県道津名五色三原線・広石バイパス完成
- 6 大鳴門橋開通
- 6 2番目の企業誘致、淡路米穀営業開始
- 8 高田屋嘉兵衛銅像を健康村に建立



▲上堺ふるさと会館竣工を祝いもちまきが行われる (S58.3.1)



▲広報第247号 (S58.8.15発行)



▲広石バイパスの完成を祝い、五色中学校吹奏楽部の先導で通り初めを行う関係者 (S60.5.16)



▲広報第280号 (S61.5.15発行)



▲昭和62年鳥飼八幡宮秋祭り



▲五色町なかよし音楽会 (S63.2)



▲広報第320号 (H1.9.15発行)



▲大相撲五色場所に15,000人が詰めかける (H2.4.6)

昭和61・3 五色丘農協ライスセンター完成

田処地区の新農業構造改善事業が竣工

3番目の企業誘致、ワールドイン

ダストリー五色操業開始

4 大宮ふるさと会館オープン

三島徳七博士胸像を五色中学校に建立

9 企業誘致、大日化成操業開始

10 町制施行30周年記念式典開催

11 高齢者生きがい創造センター竣工

昭和62・3 初代町長中野久平翁の銅像を

町民センター前に建立

3 鮎原西ふるさと会館オープン

町長に齋藤貢氏3選

7 下堺集落センター竣工

7 下堺集落センター竣工

10 「五色いずみ会」厚生大臣賞受賞

昭和63・3 鮎原南谷ふるさと会館オープン

3 町営住宅「堺団地」竣工

3 鮎原診療所・健康管理センター竣工

保健衛生の最高峰「保健文化賞」受賞

10 企業誘致、ミサキ電気開業

12 保健医療カードシステム稼働

12 大昭和精機第2工場開業

平成元・2 鮎原上ふるさと会館オープン

2 鮎原上ふるさと会館オープン

5 「五色町スポーツのあゆみ」発刊

8 嘉兵衛まつりで高田屋太鼓を初披露

体力づくりで内閣総理大臣賞受賞

10 五色診療所にリハビリ室・研修室完成

10 第71回兵庫県畜産共進会開催

10 第2・第4土曜日、役場閉庁となる

11 廻り弁天が三宝院へ

平成2・4 大相撲五色場所開催

4 鮎原吉田ふるさと会館オープン

5 町営住宅「鳥飼上団地」竣工

12 「鮎の郷団地」分譲開始

平成3・3 情報センター竣工

5 淡路五色農業協同組合発足

町制35周年記念イベント開催



▲ 広石八幡神社秋祭り(H3)



▲ 鮎原バイパス開通(H4・3・31)



▲ 都志万歳の「つかいだんじり」フランスのボールド市で公演(H3.11.23)



▲ 五色サルビアエコーが洲本市民会館で「五色の子守歌」を初披露(H3.10.20)



▲ 第5回過疎地域の保健医療福祉を考える研究発表大会開催(H4.10.8~9)



▲ 堺活性化委員会が堺小学校に横断幕を揚げ、複式学級阻止に取り組んだ(H4.9)



▲ 第1回ふるさと芸能まつり開催(H5.3.14)



▲ 河上天満宮春祭り(H5)



▲ 第18回五色中学校学級歌発表会(H5.6.22~25)



▲ 議会開会250回を記念し、五中生を招き模擬議会を開催(H7.8.30)

平成3・5 映画「瀬戸内少年野球団」モニユメントを健康道場前に建立

7 町長選挙、斎藤貢氏4選

9 横尾隧道バイパス開通

9 健康福祉総合センター、特別養護老人ホーム「五色サルビアホール」オープン

10 大昭和精機第3工場開業

平成4・3 県道津名五色三原線・鮎原バイパス開通

3 町営住宅「鮎の郷団地」完成

3 都志集会施設「弘道館」竣工

5 健康フェア'92開催

7 町おこしフォーラム発足

9 学校週5日制スタート

9 体育協会設立20周年記念イベント開催

10 第5回過疎地域の保健医療福祉を考える研究発表大会開催

平成5・3 第1回ふるさと芸能まつり開催

3 町営住宅「みたから団地」竣工

3 堺地区町おこし会館

4 ギャラクシー淡路リゾートがオープン

5 交野市・山田村・本町のトライアングル友好都市提携を宣言

6 五色サッカークラブ誕生

9 毎週土曜日役場閉庁となる

8 第1回未来創造国際セミナー開催

10 「さかえ団地」分譲開始

2 ICカードシステム完成

平成6・2 「健康文化都市」を宣言

3 淡路五色ケーブルテレビ(ACCT)開局

3 町営住宅「第2鮎の郷団地」完成

3 鮎の郷まちおこし会館竣工

4 堺診療所開所

5 訪問看護ステーション開設

8 第1回青少年親善使節団派遣

(ヴァンワート市)



▲完成を急ぐ高田屋嘉兵衛公園 (H6.1.14着工)



▲兵庫県南部地震で悲惨な状態となった役場庁舎内(H7.1.17)
▲ロシア親善使節団来町 (H8.10.20)



▶ゆーゆーファイブ入場者数10万人突破(H9.8.23)



▲広報第382号 (H17.5.15発行)



▲広報第383号 (H7.6.15発行)



▲堺八幡神社秋祭り (H9)



▲高田屋公園で開催された第80回兵庫県畜産共進会 (H10.10.22)



▶初のトライやるウィークに挑む五中2年の生徒 (H10.11.30)

- 平成7.1 議会開会250回記念「模擬議会」開催
- 4 兵庫県南部地震発生
- 4 高田屋嘉兵衛公園オープン
- 4 紀宮さま被災者激励にご来町
- 4 在宅保健医療福祉支援システム稼動
- 5 鮎原保育園、子育てセンター竣工
- 5 鮎原保育園、子育てセンター竣工
- 6 町長に砂尾治氏当選
- 8 ヴァンワート市使節団が来町
- 12 災害公営住宅「鮎原西団地」完成
- 平成8.2 五色町農業総合管理センター竣工
- 4 心身障害児通園施設「わたぼうし」開園
- 3 災害公営住宅「鳥飼浦団地」入居開始
- 4 災害公営住宅「都志団地」入居開始
- 5 「神陽台団地」分譲開始
- 5 町制40周年記念式典、水道給水開始30周年記念式典開催
- 5 「五色町地域福祉センター」竣工
- 5 鮎原小学校プール完成
- 6 都志川ロマン燈完成
- 7 ヴァンワート姉妹都市提携調印
- 8 ロシア親善使節団来町
- 10 五色町ふれあい交流施設「ゆーゆーファイブ」竣工
- 平成9.1 災害対応総合情報ネットワークシステム稼動
- 4 五色町地域防災センター「鳥飼会館」竣工
- 4 広石分団器具庫完成
- 4 町営住宅「鳥飼団地」竣工
- 4 舟だんじり伝承館オープン
- 6 全天候型多目的広場「GOGOドーム」竣工
- 6 三島博士顕彰室がみやまホール内で開所
- 10 「菜の花ホール」が通産省によるグッド・デザイン施設に選定
- 平成10.1 神陽台集会所施設完成
- 2 五色町生活福祉センター「たんぼぼ」竣工



▲バレーボール日本代表選手を迎え教室開催 (H11.7.5)



▲さわやか朝市オープン (H11.9.26)



▲日露友好イベントで菜の花ホール前にて記念植樹 (H11.10.24)



▲町指定民俗文化財「柱の紫燈」(H12・8・16)



▲広報第440号 (H12.3.15発行)



▲合鴨オーナー稲刈り体験 (H12.9.23)



▲五色サルビアエコー発足10周年記念コンサート(H13.4.29)

▲風力発電施設竣工 (H14.10.6)



▲広石地区が実施したミレニアムイベント (H13.1.14)



▲五色・三ノ宮高速バス運行開始 (H14.4.1)



平成13

- 7 五色台運動公園「アスパ五色」一部完成
- 4 五色町緑化推進協会が国土交通大臣賞受賞
- 1 各地区でミレニアムイベント実施
- 1 NHK75周年記念番組「菜の花の沖」放映
- 11 町営住宅「広石中団地」竣工
- 5 五色浜憩いの広場完成
- 5 白菓山お城の森完成
- 5 自然資源活用型交流施設「夢工房」オープン
- 4 健康ウォーキングコース完成
- 4 嘉兵衛の里めぐり
- 4 介護保険制度スタート
- 3 下水道処理施設「五色浄化センター」竣工
- 3 ジャパンフロア2000開幕
- 12 五色町防災センター「都志会館」竣工
- 10 高田屋嘉兵衛翁生誕230年記念「日露友好イベント」開催
- 9 町営住宅「第3みたらから団地」竣工
- 7 サンセットパーク五色「夕日が丘公園」竣工
- 7 五色町長、砂尾治氏無投票再選
- 4 都志小学校プール完成
- 4 わらび座「菜の花の沖」全国公演スタート
- 3 堺分団器具庫完成
- 3 都志大橋完成
- 2 高田屋嘉兵衛翁顕彰シンポジウムが洲本市民会館で開催
- 11 第1回トライやる・ウィーク実施
- 10 五色中学校創立30周年式典開催
- 10 第80回兵庫県畜産共進会開催
- 5 在宅福祉事業推進功労で厚生大臣賞を受賞
- 5 中山間総合活性化センター竣工
- 4 三笠宮さまご来町
- 4 高田屋公園「ログハウス」完成
- 4 鮎原消防防器具庫完成
- 4 明石海峡大橋開通
- 3 町営住宅「第2鳥飼団地」竣工
- 3 鮎原診療所増築が竣工
- 3 「高田屋公園」に移設

平成12

平成10

- 3 「瀬戸内少年野球団モニユメント」を高田屋公園に移設